

イデックスオイルレポート ~For a month~

㈱新出光

【月次概況】

●第1週、9/6のWTI原油は、先週比0.52ドル高の74.07ドルとなった。石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」が5日、サウジアラビアなど8カ国が取り組む自主的な生産量削減を2カ月延長することで合意したことも下値を支えた。ただ、中国をはじめとした世界的な景気減速によるエネルギー需要鈍化に対する懸念が根強く、原油相場は次第に値を消す展開となった。

●第2週、9/13のWTI原油は、先週比5.42ドル安の68.65ドルとなった。ハリケーン「フランシーヌ」は11日米ルイジアナ州南部に上陸。13日時点ではフランシーヌは勢力を弱め、温帯低気圧に変わったという。フランシーヌは依然として周辺地域に豪雨などをもたらす可能性があるものの、メキシコ湾岸の米各石油会社の一部が操業再開の準備を始めたと伝わる中、これまで高まっていた供給懸念が和らぎ、原油が売られた。

●第3週、9/20のWTI原油は、先週比3.27ドル高の71.92ドルとなった。FRBは18日、通常2倍に当たる0.5%幅での利下げを決定。金利低下が米景気を下支えし、エネルギー需要拡大につながるとの期待が広がり、相場は19日に1%超高となった。市場では、強気と弱気の見方が交錯している。中東情勢の一段の深刻化が供給混乱を招くとの懸念が再燃。イスラエル軍が20日、レバノンの首都ベイルートを空爆したと発表。

●第4週、9/27のWTI原油は、先週比3.74ドル安の68.18ドルとなった。中国人民銀行(中央銀行)は27日付で、大規模な金融緩和の一環として、0.2%の利下げとともに、銀行の預金準備率も0.5%引き下げた。追加景気支援により同国の景気が支えられ、エネルギー需要が上向くとの観測が強まった。ロイター通信は26日、関係筋の話として、石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」はこれまでの方針通り、12月から日量18万バレルの増産を実施する見通しだと報道した。

| | | | | | | | | | |
|--|------|-------|---------|-----|---------|--------|---------|-----|--------|
| | 9月平均 | WTI原油 | 69.24ドル | 前月比 | -6.20ドル | 為替 1ドル | 144.55円 | 前月差 | -2.89円 |
|--|------|-------|---------|-----|---------|--------|---------|-----|--------|

| 日付 | 補助金 | 出光興産 | 変動幅 | ENEOS | 変動幅 |
|-----------|------|------|------|-------|------|
| 9/1~9/4 | 16.6 | | -4.0 | | -4.0 |
| 9/5~9/11 | 16.4 | | +1.0 | | +1.0 |
| 9/12~9/18 | 12.6 | | -3.5 | | -3.5 |
| 9/19~9/25 | 9.7 | | -2.5 | | -2.5 |
| 9/26~9/30 | 11.6 | | +2.0 | | +2.0 |

【単位:円/KL】

| メニュー価格推移 | 0.5HPP | | ENEOS LS船用燃料油基準価格 | |
|----------|------------------|---------|-------------------|----------------------------|
| | 2024年4-6月C重油決定価格 | 102,800 | 104,800 | 102,800(メニュー)+2,000(プレミアム) |
| | 2024年7-9月C重油仮価格 | 106,680 | 109,060 | 106,680(メニュー)+2,380(プレミアム) |
| | 2024年7-9月C重油決定価格 | 100,600 | 102,600 | 100,600(メニュー)+2,000(プレミアム) |
| 決定価格 前期比 | -2,200 | -2,200 | | |

【単位:円/KL】

| 内航燃料油価格推移 | 適合C重油 | | A重油 | |
|-----------|---------------|---------|---------|--|
| | 2024年4-6月決定価格 | 110,200 | 116,400 | |
| | 2024年7-9月仮価格 | 114,460 | | |
| | 2024年7-9月決定価格 | 108,000 | 108,600 | |
| 決定価格 前期比 | -2,200 | -7,800 | | |

| CIF価格推移 | 年/月 | 9桁速報 | 原油CIF価格 円/kl | 通関CIF ドル/bbl | 為替レート 円/ドル | 原油CIF価格 前月比 |
|---------|-------|--------|-----------------|-----------------|---------------|----------------|
| | 24/8 | 貿易統計速報 | 85,875 | 87.48 | 156.07 | -2,451 |
| | 24/9 | 最終予測 | 74,504 | 81.89 | 145.28 | -11,371 |
| | 24/10 | 展望 | 69,683 | 77.47 | 143.00 | -4,821 |
| | 24/11 | 展望 | 68,966 | 77.76 | 141.00 | -717 |

【次世代エネルギー】〈日本郵船 インドー日本のグリーンアンモニア海上輸送 20万トン/年〉

日本郵船は8月20日、日本向けのグリーンアンモニア(注)の製造プロジェクトを進めている、「九州電力、双日、アジアのエネルギー分野のリーディングカンパニーであるセムコーブ インダストリーズ、以下「Semcorp」)の100%子会社であるセムコーブ グリーン ハイドロジェンの3社と、日本向けグリーンアンモニアの海上輸送について協業することに基本合意しました。調印式は、インド・デリーで行われ、当社から次世代燃料ビジネスグループ長の六呂田高広が出席した。

このプロジェクトは豊富な再生可能エネルギー資源を有するインドで、競争力の高いグリーンアンモニアの製造を目指している。2024年6月に九州電力と双日はSemcorpとともに、このプロジェクトで生産されたグリーンアンモニアを、九州地方を中心とした日本のさまざまな産業の需要家に供給することで基本合意した。

本合意は、このプロジェクトを通じて生産されるグリーンアンモニア年間約20万トン九州へ輸送することを前提としており、当社がこれまでアンモニアの海上輸送で得た経験と知見を活用する。

当社は海上輸送を通じて、九州地方をはじめとした日本におけるアンモニア等次世代エネルギーのサプライチェーン構築に貢献していきます。グリーンアンモニアは、再生可能エネルギーを活用して生成されたアンモニアのこと。燃焼時だけでなく製造時にも二酸化炭素(CO2)が排出されないことから、脱炭素社会の実現に向けた有力なエネルギー資源として期待されている。

出典: 日本郵船HP https://www.nyk.com/news/2024/20240821_01.html

【10月価格変動要因】

●需要: 中国原油輸入量は許減少傾向にある他、欧州やアジア圏の製油所の稼働率が低下しており、根本的な需要の弱さ故に上昇トレンドを形成しにくい環境に。30日に発表された中国9月製造業・非製造業PMIも節目の50を下回る水準となり、ドライブシーズンを終えた今、需要回復の兆しも見えにくく原油価格は水準を切り下げる現況。

●供給: リビアの油田操業停止が話題を集めていたが、9月末には東西政府で中央銀行総裁人事が固まり、懸念は後退。OPECも生産余力も残存し、かつ需要も弱含む中で上昇材料とはならず、下値支えの材料として意識されるにとどまった。サウジアラビアが100ドルの原油価格目標を放棄し増産に踏み切るとの記事も伝わり原油価格の下落材料となったが、確実な情報ソースとも言えず真偽不詳。とは言えOPECは今後協調減産から段階的に増産に向かう事が既定路線ともなっており、需給環境の面では緩和的になっている。

●地政学リスク: 月にイスラエルがハマスのNo.1-2を殺害した事が記憶に新しいが、直近ではイスラエル北部・レバノン南部で対峙する親イラン民兵組織・ヒズボラとの戦闘が激化。ヒズボラの通信機器を遠隔操作で破壊・戦闘員に多数の死傷者が出た他、先週末にはヒズボラの指導者・ナスララ師の殺害が報じられている。また本日朝方にはイスラエルより対象を限定した地上作戦の開始が報じられ、前面衝突への緊張が高まっている。問題はヒズボラを支援するイランの立ち位置である。ヒズボラから支援を求められ、ハマスの指導者は自国領内で殺害される等、イラン参戦への材料は整う一方、イランは戦略的忍耐という政治ドクトリンを堅持し続けており、イラン自身もまた戦闘に積極参加する意向は無いものと思われる。イスラエルとイランは兵士の数だけ見れば中東地域で突出した軍事力を保有しており、ほぼ拮抗、乃至はイランが僅かに勝る。しかし、イスラエルは空軍をはじめ最新式の兵装をそろえる一方、イランはイラン革命時の1970年代の前時代的兵装がまだ現役であり、実力の点ではイスラエルに軍配が挙がるものと考えられる。また、長引く制裁でイランの経戦能力は乏しいと考えられており、イスラエルとイランが直接対決に至るとも思えず、あくまでイランの代理勢力vsイスラエルという構図は変わることはないものと想定される。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

| | Brent | WTI |
|---------|-------|-----|
| High | 78 | 74 |
| Average | 72 | 68 |
| Low | 66 | 62 |

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

| | Brent | WTI |
|---------|-------|-----|
| High | 80 | 76 |
| Average | 73 | 69 |
| Low | 66 | 62 |

| 日付 | 国 | 10月経済指標カレンダー | 日付 | 国 | 10月経済指標カレンダー |
|----|-----|-------------------------|----|-----|--------------------------|
| 1 | 日本 | 7-9月期日銀短観・四半期大企業製造業業況判断 | 17 | 米国 | 9月小売売上高 |
| 1 | ユーロ | 9月消費者物価指数 | 17 | ユーロ | ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見 |
| 1 | 米国 | 9月ISM製造業景況指数 | 18 | 日本 | 9月全国消費者物価指数 |
| 2 | 米国 | 9月ADP雇用統計 | 20 | 米国 | 9月新築住宅販売件数 |
| 3 | 米国 | 9月ISM非製造業景況指数 | 30 | ユーロ | 7-9月四半期域内総生産 |
| 4 | 米国 | 9月非農業部門雇用者数変化 | 30 | 米国 | 10月ADP雇用統計 |
| 4 | 米国 | 9月失業率 | 25 | 米国 | 7-9月四半期実質国内総生産 |
| 4 | 米国 | 9月平均時給 | 31 | 日本 | 日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表 |
| 9 | 米国 | 米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨 | 31 | 日本 | 植田和男日銀総裁、定例記者会見 |
| 10 | 米国 | 9月消費者物価指数 | 31 | ユーロ | 10月消費者物価指数 |
| 17 | ユーロ | 月消費者物価指数 | 31 | 米国 | 9月個人消費支出 |
| 17 | ユーロ | 欧州中央銀行(ECB)政策金利 | 0 | 0 | 0 |